

柏尾通り大山街道を往く④

日時：2019年3月16日（土） 曇時々晴 歩数1万5000歩 行動時間5時間20分

集合：小田急伊勢原駅8時30分

コース：伊勢原駅（バス）→大山ケーブルバス停→八意思兼神社（やごころおもいかねじんじゃ）→大山寺→阿夫利神社下社→16丁目→25丁目（イタツミ尾根分岐）→大山頂上（1252m）→見晴台→阿夫利神社下社→大山ケーブルバス停（バス）→伊勢原駅

参加者：熊坂（L） 大竹 勅使河原 平石 河野 横山 市村 中村ゆ 山田 畠 松野 三田 12名

柏尾通り大山街道を往く最終回の4回目は、標高310mの大山ケーブルバス停から標高1252mの大山山頂へ、標高差942mのかなりハードな登山。下山は見晴台から阿夫利神社下社までのコース。

2日前の伊勢原市の天気予報は、雨のち晴で午前中は降水確率70%、前日午後の予報でも50%の降水確率。それが深夜になると、晴のち曇で降水確率はなんと10%。天候に恵まれての大山山行となりました。

熊坂リーダーを先頭に、ほぼ標準タイムで大山山頂へ。昨年の12月15日に戸塚駅からスタートして、4回目で大山街道を歩ききりました。熊坂リーダーをはじめ、勅使河原さん、平石さん、河野さん、畠さんが、柏尾通り大山街道を踏破。達成感いっぱいの楽しい大山登山でした。



小田急伊勢原駅～大山ケーブル駅（標高310m）

小田急駅に降り立つと、駅構内には「祝、大山詣りが日本遺産に認定」の横断幕が目にとまります。「大山とうふまつり、3月16日と17日開催」のポスターも貼られていました。

熊坂リーダーが迎えてくれて、臨時バスも出ているとのことで集合した人からバスに乗車して出発。途中のバス通りは前回歩いた見覚えのある道、20分ほどで大山ケーブルバス停へ着きました。

鈴川の阿夫利橋には大山名産の独楽のモニュメントがあります。駐車場ではとうふまつの準備が始まっています。3回目のときは、鈴川沿いのとうふ坂を上ってきました（2枚は3回目のときの写真）。



大山ケーブル下駅～こま参道～八意思兼神社

大山観光案内所の壁に「大山豆知識の表示板」がありました。大山の階段数（ここより）では、大山ケーブル駅まで382段、大山寺まで928段、阿夫利神社下社まで1610段と記されています。

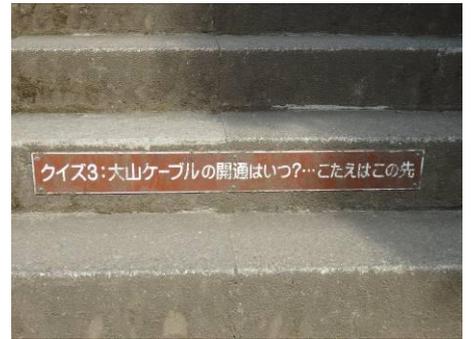
9時丁度スタート。晴。1610段の階段も1歩から。こま参道には、きゃらぶきや独楽などのお土産さんや宿坊が並んでいます。階段にはクイズの表示、石畳には独楽の図柄も、1週間前に行われた大山登山マラソンのポスターを見て、大竹さんが「以前10数回参加した」と話されていました。ケーブル駅少し上の八意思兼神社（やごころおもいかねじんじゃ）へ、熊坂リーダーがコース説明&入念にストレッチを行いました。

る人に出会うという言い伝えもある。

4.大山の階段数(ここより)

	ケーブルカー 大山ケーブル駅	大山寺	阿夫利神社下社 (女坂経由)
階段数	382段	928段	1610段
徒歩	15分	40分	60分

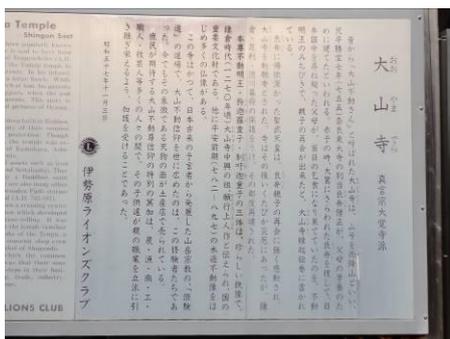
・「男坂経由での阿夫利神社下社まで(徒歩60分)」と「下社～奥社間(徒歩90分)」は、階段が不揃いのため測定不能



八意思兼神社～女坂の七不思議前半～大山寺（標高512m）

八意思兼神社を出てすぐのところにミツマタの黄色の花が咲いていました。女坂を上ります。「女坂の七不思議」の立て札があり、「その一、弘法の水。弘法の加持雲水ともいい、弘法大師が岩に杖を突いたら、その跡から清水がこんこんと湧き出たという」と書かれていました。「弘法大師は全国どこにでも現れるね」の声が。

江戸時代に積み上げられたと思われる古い石段を上ります。鶯のなき声が聞こえます。大山寺直下の急峻な石段、真ん中を石灯籠が続きます。928段上ってきました。大山寺は真言宗大覚寺派、昔から大山不動さんと呼ばれています。境内には厄除かわらけ投げ道場がありました。かなり暑くなり衣類調整をしながら小休憩。



大山寺～女坂の七不思議後半～阿夫利神社下社（標高725m）

阿夫利神社下社をめざします。「女坂の七不思議その五は無明橋、話をしながら通ると橋から下に落ちたり、忘れ物や落とし物をしたり、悪いことが起きたりする」と書かれています。無言で上ります。

黙々と上ります。ようやく女坂と男坂の分岐まで上りきりました。下社はもう少しです。10時20分、1610段上りきり阿夫利神社下社へ。標高725m、ケーブル下駅からの標高差415m、高尾山を高尾山口駅から上った感じです。頂上登山口の案内板が見えますがここで一休み、差しれのお菓子などをいただきしばし談笑。リーダーはこれからの登山の安全祈願をしてくれているのでしょうか。



阿夫利神社下社～1丁目の登山口～16丁目の蓑毛分岐

10時25分、登山口一丁目から28丁目の山頂をめざします。リーダーを先頭に鳥居をくぐります。いきなり目もくらむような急階段です。やがて夫婦杉。牡丹岩がありました。立て看板に「足元などに見られ球体の岩のこと。牡丹の花のように見えるところからその名がついた」と書かれています。天狗の鼻突き岩がありました。ここには「石段左側の岩にある拳が入るくらいの穴のこと。これは天狗が鼻を突いてあけた穴だといわれている」と書かれています。

11時8分、16丁目の蓑毛分岐、傍らに追分の碑。小休憩、風が冷たくなり上着を着こみました。



16丁目の蓑毛分岐～ヤビツ峠分岐～大山山頂（標高1252m）

11時16分、山頂をめざします。11時42分、25丁目のヤビツ峠分岐、最後の小休憩をとって急峻な階段を上ります。木の根が見える所には霜柱が残っていました。

最後の石柱、28丁目を通ります。11時58分、熊坂リーダーを先頭に一団で山頂へ到着です。今年加入された三田さんも健脚ぶりを発揮されてVサインで山頂へ。山田さんは余裕の万歳ポーズで到着です。下社からの標高差527m、バス停からの標高差942m、ほぼ標準コースタイムで踏破しました。恒例の1252mの大山山頂標識を挟んで集合写真です。今回は、会員番号300代若手男性カルテットの記念写真も撮りました。



大山山頂～2. 25kmの下山～見晴台（標高769m）

昼食をとり、12時36分下山開始です。久々に参加の会員番号215番の横山さん、熊坂リーダーにピッタリつき軽やかな足取りの下りです。大竹さんも、先頭から3番目の河野さんの後ろにつき健脚ぶりを発揮しています。足場の悪い岩場もなんのその一団で軽やかに下りてきます。カメラを構えていて見事な足取りに感心してしまいました。この日の参加者で最高齢の勅使河原さんは淡々と下りてきます。

13時34分、標高769mの見晴台へ、58分で下りてきました。ちなみに第5回大山80歳祝福登山の1月17日、1班は、12時25分山頂発、見晴台は13時38分で1時間4分でした。



見晴台～二重滝神社～阿夫利神社下社～クールダウン

見晴台で5分の小休憩、細かい雨が東の方から運ばれてきました。それも東の間で山行に影響はありませんでした。杉林のなだらかな道を下り、二重滝神社の前で記念写真を撮りました。

14時11分、阿夫利神社下の広場へ。1万5千歩、クールダウンして14時20分、行動時間5時間20分でした。ここまでが正式コース、阿夫利神社駅からケーブルカーで下山しました。



7人の有志がケーブルカーに乗らず、男坂を下りました。山岳信仰で、江戸時代の人々が歩いてきた大山街道、石段を下りながら「江戸時代の人ほどの思いでこの石段を下りてきたのか」と、思いを馳せました。

15時10分、大山ケーブルバス停へ無事下山、ケーブル組と合流しました。とうふまつりの仙人鍋から湯気が出ていました。

